

# 暖房器具の取り扱いには、くれぐれもご注意を！

## 石油ストーブに ガソリンを給油し出火

十一月二十一日、午前十時頃、久居明神町地内の住宅から出火し、木造平家建て約六十平方メートルのうち、天井や壁面など約二平方メートルを焼く火災が発生しました。火災原因については、一人暮らしの七十代の男性が、石油ストーブに誤ってガソリンを給油し点火したもので、幸いにも訪問していたホームヘルパーさんなどによる初期消火で、大事には至りませんでした。

誤って給油したガソリンは、男性が普段から草刈り機用の燃料として四リットルのポリエチレン容器で自宅に保管していたものでした。

もうすぐ師走となり、一雨一雨寒くなってくる時期を迎え、ご家庭で石油ストーブなどの暖房器具を使用する機会が多くなります。このように石

油ストーブなどからの火災を防ぐために、次のことに注意して下さい。

**石油ストーブなどに給油する場合は、必ず火を消してから行う。**

**給油後はタンクのふたを確実に締める。**

**ストーブなどの近くに衣服や燃えやすいものを置かない。**

**燃料の保管場所は、火気を使う場所から遠ざけるとともに、容器が転倒、または破損しないようにする。**

### 【誤給油を防止するために】

ガソリンの保管は、必要最小限とし、灯油と区分して保管する。

ガソリンは、ガソリン専用容器を使用する。



ガソリンを給油して、建物火災に至った石油ストーブ

## 誤給油火災のメカニズム

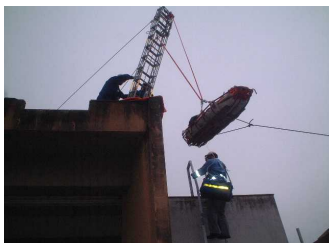


誤給油による出火状況 (東京消防庁HPより)

ガソリンは、橙色(オレンジ色)で揮発しやすい燃料です。カートリッジ式石油ストーブに誤って給油されることにより、カートリッジタンク内の圧力が高まり、燃料が押し出されて、溢れ油により出火に至ります。

## 有事即応体制に備えて

十月二十三日、中消防署西分署において、「高所から作業員が転落した!」という想定で署長検閲訓練が行われました。訓練では、消防隊と救急隊が連携して、応急手当を施した負傷者を高所から救出する訓練を展開しました。日々進歩して



いる救急署員は、救助技術について訓練や丸となった署員が一高所から負傷者を救出する訓練やね、当消防

## 各地で火災予防を呼びかけ

の活動指針の一つである「有事即応」体制にさらに磨きをかけようと、気持ちを新たに一生懸命取り組みました。

十一月三日には、桜橋のマイカル津サティにおいて防火キャンペーンを開催し、ミニ消防車での写真撮影や消火器ゲーム、輪投げ、



輪投げを楽しむ子供たち

の買い物客らが大勢立ち寄り、家族で防火について学んでいました。

同日四日には、一志町の一志体育館で市幼年婦人防火クラブの防火のつどいが開催されました。

発表会では、市消防音楽隊の演奏から始まって、園児たちの

かわい演技を通して、保護者や地域の住民に火災予防を呼び掛けてい



踊りを披露する園児たち